

平成 2 2 年度

学校法人の概要

平成 2 2 年 4 月 1 日 から
平成 2 3 年 3 月 3 1 日 まで

学校法人 青森田中学園

—目 次—

1. 学校法人の概要	1
(1) 建学の理念・精神	1
(2) 沿革	1
(3) 設置学校等	3
(4) 役員及び教職員に関する情報	4
(5) 各学校等の学生数に関する情報	4
2. 事業の概要	5
(1) 当該年度の主な事業の概要	5
(2) 教育研究の概要	1 7
①教育研究上の基準となる組織に関する情報	1 7
②教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報	1 8
③学生に関する情報	2 1
④教育課程に関する情報	2 4
⑤学修の成果に関する評価及び卒業の認定に当たっての基準に 関する情報	2 5
⑥学習環境に関する情報	2 6
⑦学生納付金に関する情報	2 8
⑧学生支援と奨学金に関する情報	2 9
(3) 管理運営の概要	3 1
(4) 特徴ある取り組みの概要	3 2
3. 財務の概要	3 4
(1) 財産目録	3 4
(2) 貸借対照表	3 5
(3) 資金収支計算書	3 6
(4) 消費収支計算書	3 7
(5) 平成22年度決算の概要	3 8

1. 学校法人の概要

(1) 建学の理念・精神

本学園は、昭和21（1946）年に、創立者久保 豊前理事長と久保ちゑ前学園長が、「青森珠算簿記学院」と「青森裁縫学院」を設立したことに遡る。第二次世界大戦後の混乱期であり、青森市も焼け野原で、住む家もない中で、どのように家族を養い、未来に希望を持って生きていくかに国民が憂慮した時代である。そのような中で、まずは手に職を付けて生活の自立をはかること、貧しいながらも豊かな心を育んでいくことを教育の理念に掲げ、「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」を建学の精神とし、慈愛と英知に満ちた絶対的な真理をめざし、子どもたちには、他者を尊重する心を、教職員には教育愛にあふれる学園づくりを求め、学園全体の建学の精神として継承されています。

(2) 沿革

昭和21年6月	青森珠算簿記学院（現 青森中央経理専門学校）並びに青森裁縫学院（現 青森中央文化専門学校）創立
昭和31年3月	学校法人田中学園設置認可
昭和45年1月	学校法人青森田中学園に組織変更
昭和45年4月	青森中央女子短期大学家政学科（現 青森中央短期大学食物栄養学科）開学
昭和46年4月	青森中央女子短期大学附属第一幼稚園（現 青森中央短期大学附属第一幼稚園）開設
昭和49年4月	青森中央女子短期大学幼児教育学科（現 青森中央短期大学幼児保育学科）開設
昭和51年1月	専修学校制度発足、青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校認可
昭和51年3月	自適館（学生寮）竣工
昭和55年4月	青森中央短期大学附属第二幼稚園開設
昭和56年4月	青森中央短期大学附属第三幼稚園開設
昭和59年8月	こぶし会館（学生寮）竣工
昭和63年4月	青森中央短期大学経営情報学科開設
平成元年4月	青森中央短期大学専攻科福祉専攻開設
平成8年3月	浅虫校地の拡充・野外教育活動用地取得（108,941㎡）
平成10年4月	青森中央学院大学経営法学部経営法学科開学（青森中央短期大学経営情報学科学生募集停止） 本部棟・図書館棟・プール棟・国際交流会館竣工 青森中央学院大学と大連外国語学院（中国）との間で国際交流協定を締結
平成14年10月	学術交流会館竣工 野球場・陸上競技場・サッカー場・テニスコート完成
平成15年4月	ボクシングジム完成
平成16年4月	青森中央学院大学大学院地域マネジメント研究科地域マネジメント専攻開設 青森中央学院大学地域マネジメント研究所開設 柔道場完成
平成18年4月	青森中央短期大学看護学科開設 看護棟竣工。図書館増設

- 平成19年3月 青森中央学院大学と国立貿易大学（ベトナム）との間で学術交流協定を締結
- 平成20年4月 青森中央学院大学と吉林化工学院（中国）との間で学術交流協定を締結
- 平成20年6月 青森中央学院大学開学10周年記念総合運動場完成
- 平成20年9月 青森地域大学間連携（青森市内7大学）に関する協定を締結
- 平成21年3月 青森中央短期大学平成20年度第三者認証評価の結果適格と認定（財団法人短期大学基準協会）
- 平成21年5月 ハンドボールコート完成
- 平成22年3月 青森中央学院大学平成21年度第三者認証評価の結果適格と認定（財団法人日本高等教育評価機構）
- 平成22年4月 青森中央学院大学と国立貿易大学（ベトナム）との間で共同教育プログラム実施協定を締結
- 平成22年8月 青森中央学院大学と僑光科技大学（台湾）との間で学術交流協定を締結
- 平成22年10月 青森中央短期大学とチュラロンコン大学看護学部（タイ国）及び上海大学国際交流学院（中国）との間で、学術交流協定を締結
- 平成22年10月 青森中央学院大学と上海大学国際交流学院（中国）との間で学術交流協定を締結
- 平成22年12月 青森中央学院大学と、运城学院（中国）との間で共同プログラム協定を締結
- 平成23年2月 青森中央学院大学と泰日工業大学（タイ国）との間で学術交流協定を締結

(3) 設置学校等

学校法人青森田中学園

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番 1

理事長 石田憲久

青森中央学院大学

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番地

学長 中村信吾

青森中央学院大学大学院

研究科長 菊地和聖

青森中央学院大学地域マネジメント研究所

所長 内山 清

青森中央短期大学

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番地

学長 久保 薫

青森中央短期大学附属第一幼稚園

所在地 青森市大字野尻字今田 1 0 8 番地

園長 坪谷輝子

青森中央短期大学附属第二幼稚園

所在地 青森市大字三内字丸山 1 6 番地

園長 赤坂敦子

青森中央短期大学附属第三幼稚園

所在地 青森市大字原別字神崎 9 番地

園長 八木橋ひろみ

青森中央文化専門学校

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番 1

校長 久保 薫

青森中央経理専門学校

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番 1

校長 石田憲久

ばんびくらぶ (保育施設)

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番地

園長 坪谷輝子

(4) 役員及び教職員に関する情報

1) 役員に関する事項

理事 8名 (定数8名以上10名以内)

監事 2名 (定数2名)

2) 評議員に関する事項

評議員 17名 (定数17名以上21名以内)

3) 教職員に関する事項

平成23年5月1日現在 (単位:人)

区分	青森中央学院 学校	青森中央学院 大学 地域マネジメント 研究所	青森中央短期 学校	青森中央短期 大学 附属第一幼稚園	青森中央短期 大学 附属第二幼稚園	青森中央短期 大学 附属第三幼稚園
専任教員	31	—	49	12	8	6
非常勤教員	46	—	59	—	—	—
専任職員	25	—	30	2	2	1

区分	青森中央文化 専門学校	青森中央経理 専門学校
専任教員	4	3
非常勤教員	—	—
専任職員	—	—

※専任教員と非常勤教員の比率

青森中央学院大学 1 : 1.48

青森中央短期大学 1 : 1.20

(5) 各学校等の学生数に関する情報

平成23年5月1日現在 (単位:人)

学部・研究科名		入学定員数	収容定員数	現員数	備考
青森中央学院大学	経営法学部	175	800	569	教員一人当たり学生数18.4
	地域マネジメント研究科	10	20	34	教員一人当たり学生数3.4
青森中央短期大学	食物栄養学科	60	120	134	教員一人当たり学生数10.3
	幼児保育学科	100	200	187	教員一人当たり学生数11.0
	看護学科	80	240	276	教員一人当たり学生数14.5
	専攻科福祉専攻	20	20	24	教員一人当たり学生数8.0
青森中央短期大学 附属第一幼稚園			160	103	
青森中央短期大学 附属第二幼稚園			160	87	
青森中央短期大学 附属第三幼稚園			120	62	
青森中央文化専門学校	服飾課程	80	140	16	
青森中央経理専門学校	商業実務課程	20	40	45	

2. 事業の概要

(1) 平成 22 年度の主な事業の概要

①学園

将来構想

1. 大学情報戦略・将来構想プロジェクトの立ち上げ（短期大学）
2. 大学経営に関する目標の設定
3. 将来計画に関する情報収集

FD・SDの推進

1. 教職員の資質向上
2. 学内外研修会の企画・参加

学生教育の充実

1. 教育方針・教育目標・教育課程の点検・評価・改善
2. 学生の基礎力の向上とモチベーションを高める方策の検討・実施
3. 学生参加型プログラムの開発・課外活動の充実
4. 各種GPの申請と外部資金の獲得と研究活動への支援
5. 学生相談室・健康管理室の充実と学生サービスの向上
6. 教育・研究環境の整備充実
7. 学生の就職・進路への積極的支援
8. 国際交流活動の積極的推進

地域貢献

1. 産学官連携と生涯学習プログラムの策定・参加
2. 公開講座、公開授業、出前講座、シンポジウム、セミナー等の開催
3. 保育施設（ばんびくらぶ・ひよこくらぶ）の設置

入試広報戦略

1. 科学的な分析による入試広報戦略活動
2. ホームページ・学園報の充実と積極的な情報提供
3. 各設置校の連携と情報の共有

管理・運営・財務

1. 危機管理体制の確立と充実（東北地方太平洋沖地震への対応）
2. 情報公開（財務経営情報を含む）の推進
3. 安定的な財務状況の確立と有効資金の活用

青森中央短期大学創立40周年記念

1. 記念式典・祝賀会の実施
2. 記念活動・記念誌の発行
3. 記念エコタワーの設置

②青森中央学院大学・大学院・研究所

・入学前・後サポートプログラムの実施

リメディアル教育の充実を図り、AO・推薦入学者を対象とした入学前サポートプログラム（海外留学志向型、大学院進学志向型、公務員志向型、地域リーダー志向型、教員志向型、文化活動志向型）の実施、学習支援センターを中心とした入学後の脱落防止、相談機能、上位層のモチベーションの向上を図った。

・スポーツ系学生のサークル活動と学習を両立できる施策を実施

スポーツ系サークルに所属する1年生を対象として、補習授業を行い、サークル活動と学習が両立できるよう支援した。

・海外留学の推進

上海大学4名、アメリカ合衆国メイン州ベノブスコット語学学校2名の短期留学を実施した。また海外留学プログラムの充実のために、外国人留学生を活用した留学前語学準備講座を開設し、海外留学希望者の語学力の向上とあわせ、留学前の不安の解消を図っている。

・官学連携青森県基本計画プロジェクトへの参加

青森県が策定した「青森県基本計画未来への挑戦」のプロモーション活動の一環として、青森県と連携した共同プロジェクト「学生発未来への挑戦」事業に平成21年度から参加し今年度は、海外からの観光客向けに外国語によるメニュー作り等具体的な事業を行い報告した。

・公務員試験対策講座の実施

正規の授業に加えて、地方公務員上級職および国家公務員Ⅱ種、警察官・消防官などを目指す学生のために特別な講座を設け、市役所、町役場、JR、日本郵政等への合格者を出した。

・キャリア教育の充実と就職実績

地域・企業と連携し、専門教育内容を実践的な場で活用する課題解決・参加型プログラム群として、トークサロン、キャリアアップ・ワークショップ、トライアウト、eコマース等キャリア教育の充実を図り、結果として平成22年度の就職率は94.2%となっている。

・施設の改修工事の実施

キャンパス内通路が部分的に破損が生じているので、キャンパス内全面舗装工事を実施し、環境整備を図った。

・図書館の環境整備

図書館における、情報検索の利便性向上のため、図書館内に無線LANを配線し、館内貸し出し用ノートパソコンを12台から20台に増設、デスクトップパソコン10台を

設備し、インターネットの利用を促進した。

また、授業終了後の図書館利用に対応するため、図書館の開館を平日 8 時 50 分～21 時まで、土曜日は 8 時 50 分～17 時までとして運営している。

ゼミ学習での利用が活発なため、15 人収容可能な個室を 3 室設け、グループ討論が可能なように配慮した。

・海外・地域連携協定に基づく、諸施策の展開と実施

タイ国カセサート大学、台湾僑光科技大学、修平技術学院、高雄市立陽明国民中学校の学生を中心に平成 22 年度は団体の受入を行い、農業体験を実施した。

学生が地域マネジメント研究所と共同し、十和田湖、白神山地地区でのイベントに参加したり、昨年に引き続き手作りの観光マップ作成等地域の活性化に協力した。

・戦略的大学連携の実施

青森市内 7 大学による「大学コンソーシアム青森」を組織し、単位互換、合同 SD 研修会、共催公開講座、研究シーズの発掘等の連携活動を進めている。

・公開型授業の実施

青森中央学院大学は「現代社会論」「市町村リレートーク(人間と教育)」「郷土と文化」、青森中央学院大学地域マネジメント研究科は「観光人材養成セミナー」「あおもりツーリズム人づくり大学はやて」を一般公開授業とし、地域で活躍している様々な立場の方を講師として招き、学生と地域の方が一緒に受講することにより、地域の諸問題について学習する機会を設けた。

・外部評価会議の実施

自己点検評価報告を基に外部の評価委員（青森県・青森商工会議所・高等学校・教育研究所）による外部評価会議を平成 23 年 2 月 17 日に実施した。

・文部科学省 G P 採択

文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」（学生支援推進プログラム）として、地域・企業との連携による「課題解決・参加型」の学士力養成プログラムが採択され 2 年目の平成 22 年度はより具体的事業に着手した。（平成 21・22・23 年度継続事業）

・助成・委託事業等の実施

財団法人青森学術文化振興財団・ふるさと雇用再生事業等からの研究助成・委託事業合せて 14 件を受託し調査・研究等の事業を実施した。

・海外の協定校と共同教育プログラムの実施

平成 10 年度から大連外国語学院との国際交流協定に基づき、3 年次に編入するコースを設けて、毎年留学生の受け入れを行っている。また、平成 19 年度に締結したベトナム国立貿易大学との国際交流協定に基づき、貿易大学で 1 年半日本語を中心に学び、青森中央学院大学の 2 年次に編入する青森中央学院大学編入学コースを貿易大学で開始

した。平成22年度には、台湾僑光科技大学、中国上海大学国際交流学院、タイ国泰日工業大学と学術交流協定を締結し、平成22年5月には、泰日工業大学の学生34名をサマーキャンプ（日本語学習と日本体験）として、本学に受け入れている。

また、中国運城学院に国際交流学部が設置されたことに伴い、本学と協同プログラム（現地3年＋本学2年）実施にむけた追加協定を締結した。

・グリーンツーリズム支援事業の実施

本学に在籍する外国人留学生や海外協定校のネットワークを活かした、海外から青森県内へのグリーンツーリズム受け入れ事業を青森県内の各機関と連携して「アジアからの観光客誘致推進協議会」を組織し、台湾を中心に、タイ、香港等から修学旅行生を受け入れた。平成22年度は、ふるさと雇用再生特別基金事業として、青森県からの委託を受け実施した。

・教員免許状更新講習の実施

学部の特徴を活かした教員免許更新講義（選択領域）を開催した。申込数は昨年度より増加し、「社会科」だけではなく、多様な教科担当者が受講した。（しなやかに、賢く生きるための経済・法律リテラシーの養成「労働」「消費」「企業」を鍵概念として）

・キャンパス内全面禁煙

平成22年度からは健康保持増進及び環境に配慮しキャンパス内全面禁煙とし、運営されている。

・サークル活動支援について

学生のサークル活動については、経費面においても積極的な支援を行っている。本年度は新たに立ち上げたアンサンブルサークルに楽器購入の助成を行った。

各サークルも活性化し、カーリング部、ボウリング部が全国大会で優勝し、硬式野球部、サッカー部、バスケットボール部が東北地区のI部リーグに昇格するなど著しい成果が現れた。

・東日本大震災の対応

地震後、ポータルサイトの緊急メール等を活用し、学年末春季休業期間ではあったが比較的早く全学生の安否が確認できた。（学生・教職員は全員無事が確認された。）

施設の被害状況についても、大手ゼネコンによる検査を実施し、安全が確認され、一部日程の変更はあったが学位記授与式を無事開催した。

なお、学位記授与式終了後予定されていた卒業祝賀会は自粛し、その費用は義援金として、青森県を通じて被災地に贈られた。

被災学生への具体的支援

- ・在学生・新入学生に対して、授業料・学生会館室費の減免
- ・学生寮の開放（会館生・アパート入居の卒業生）
- ・学費等の納入期限延期措置
- ・生活費等の支援

- ・卒業生の就職先の勤務確認（キャリア支援センターが就職先へ確認）
- ・同窓会・後援会の支援

被災新入学生への具体的支援

- ・入学が可能かどうか（入試広報センターが出身高校等へ確認）
- ・入学金・学費等の延納措置

・FD活動

今年度ネットワークつばさ（山形大学を中心としたFD組織）に参加したことにより、従来行ってきた授業方法検討会に加え、全教員を対象とした公開授業（参観授業）の実施や学生FD会議（授業評価アンケート）への参加等、積極的にFD活動を行った。

③青森中央短期大学

・入学前・後サポートプログラムの実施

リメディアル教育の充実を図り、AO、推薦入学者を対象とした入学前サポートプログラムの実施、学習支援センターを中心として、学科や学生の志向にあわせた、未履修科目や特定の科目の学力が不足している学生に対して、リメディアル講座（アカデミックライティング、数学、化学、物理）を開設した。

・保護者向け教育懇談会の実施

保護者対象の教育懇談会を継続して実施し、短期大学全体の概況説明の後、学業成績、進路、学生生活の個別相談を行い、今年度も約100名の出席があった。

・看護師国家試験対策講座の実施

正規の授業に加えて、在学生及び昨年度不合格者を対象として、学内・外の講師による国家試験対策講座を開設し、合格実績を高めた。

・就職先の確保と就職実績

学生の就職を支援する組織として、キャリア支援センター、キャリア支援委員会を設置して、前年度の就職状況や内定報告書を分析し、各学科のアドバイザーと連携をとりながら学生の就職支援を行ない、平成22年度の就職率は96.6%となっている。

・卒業生を対象としたキャリアアップ支援講座の実施

卒業生を対象にしたキャリア支援として、介護支援専門員（ケアマネージャー）試験対策講座、福祉住環境コーディネーター検定2級試験対策講座、管理栄養士国家試験受験対策講座等を開設した。

・教務・学生情報処理システムの更新および、キャリア支援情報処理システムの導入

平成21年度末に教務関係情報処理システム「GAKUEN」および、学内ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」のバージョンアップを行い、学生出席管理システムや、小テスト機能など、学生・教職員の利便性を向上させるとともに、新たに「就職」に関する情報処理システムを追加し、求人票検索機能や過去の就職活動情報のデータベース化を平成22年度から本格的に稼働させた。

・文部科学省GPの採択

平成22年度は文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」の最終年度として、「ICT活動による専門職を目指した生涯キャリア支援に一貫して取り組んだ。（平成21・22年度継続事業）

・授業改善に向けた取り組み

授業アンケートについて、「FDネットワークつばさ」の様式に変更し、集計作業の効率化を図るとともに、他大学等とも比較しながら授業改善に取り組んでいる。

・戦略的大学連携の実施

青森市内7大学による「大学コンソーシアム青森」を組織し、単位互換、合同SD研修会、共催公開講座、研究シーズの発掘等の連携活動を進めている。

・出前講座の実施

出前講座については、幼・保・小・中・高・病院、介護施設・公民館等から幅広く信頼を得て、年間48件が実施された。(申し込み51件、東日本大震災によるキャンセル3件)

・教員免許状更新講習の実施

学科の特色を活かした教員免許更新講習(選択領域)を開催した。受講者が大幅に増え定着してきた。(食に関する話題を教育活動に取り入れるツール・子どもの運動能力と運動指導)

・学生発表会の実施

今年も青森県立美術館において一般公開による幼児保育学科第40期生による卒業記念講演を実施した。また、「郷土と文化」の授業を通じて、手踊(ねぶた)、囃子(太鼓・手振り鉦)の練習を重ねて、8月2日・3日の青森ねぶた祭に附属幼稚園子どもねぶたのはやし方として祭りに参加、学習の成果を市民の前で披露すると共に、地域の伝統文化に親しんだ。

・官学連携青森県との連携事業の促進

食物栄養学科は、青森県内における食育活動の発展と未来の食育指導者の育成をめざす目的から、青森県食育啓発事業を受託し、幼稚園、保育園、小中学校、卸売市場、企業等で啓発活動を行った。また、「地域に根ざした食育活動促進業務」の委託事業として、県内6箇所に「あおもり食育コンシェルジュ」を配置し、食育サポーターを活用して食育活動を推進した。

幼児保育学科専攻科福祉専攻は青森県福祉・介護人材確保対策事業を受託し、福祉サービス事業所とネットワークを構築する等、質の高い福祉人材育成事業に取り組んできた。

看護学科は、在宅医療において重要な役割を担う訪問看護師を対象とした在宅緩和ケア研修事業を受託し、訪問看護ステーション等に勤務する看護師を対象とした資質向上と在宅緩和ケアの推進を図る事業に取り組んできた。

・40周年記念事業の実施

1. 記念式典 平成22年5月21日 於青森市民ホール
記念演劇 演題「卒業旅行」 公演：渡辺源四郎商店
2. 記念講演(看護分野)
水戸美津子(自治医科大学看護学部長)
「現在から未来へ看護職はどこへ向かうのか」
3. 記念講演(幼保分野)

佐藤弘道氏（親子体操教室主宰）

第一部 ひろみちおにいさんの体操セミナー

第二部 ひろみちおにいさんのすこやか！のびのび！親子体操教室

4. 記念講演（介護福祉分野）

青山幸広氏（本学幼児保育学科卒業生：ケア・プロデュースR X組代表）

『その人らしさを引き出す本当の介護とは』

5. 記念講演（食栄分野）

木村秋則氏（株式会社木村興農社代表）

『奇跡のりんごを育てる～自然から学び、自然を喜ばせる農業～』

6. 記念祝賀会 平成22年10月23日 於国際ホテル

記念講演 白取春彦氏（「超訳ニーチェの言葉」編訳者・青森市出身）

『人生を最高に旅せよ！』

7. 記念誌等出版

- ・ 記念誌
- ・ 研究紀要記念号
- ・ こぶしの花記念号
- ・ 特別研究記念号
- ・ 看護研究記念号

・ 幼児保育学科のカリキュラムの改正

保育士育成施設の指定規則の変更に伴い、幼児保育学科のカリキュラム改正を行った。

・ 海外大学との学術交流協定の促進

平成22年10月23日、中国の上海大学国際交流学院（翁新楚院長）及びタイ国のチュラロンコン大学看護学部（ユープン・アンスローチ学部長）と学術交流協定を締結し、今後、上海大学、チュラロンコン大学と共同研究や学術情報の変換、学生・教員の交流を図ることになった。

・ 東日本大震災の対応

地震後、ポータルサイトの緊急メール等を活用し、学年末休業期間ではあったが比較的早く全学生の安否が確認できた。（学生・教職員は全員無事が確認された。）

施設の被害状況についても、大手ゼネコンに検査を実施し、安全が確認され、学位記授与式は予定通り開催した。

なお、学位記授与式終了後予定されていた卒業祝賀会は自粛し、その費用は義援金として、青森県を通じて被災地に贈られた。

被災学生の具体的支援

- ・ 在学生・新入学生に対して、授業料・学生会館室費の減免
- ・ 学生寮の開放（会館生・アパート入居の卒業生）
- ・ 学費等の納入期限延長措置
- ・ 生活費等の支援
- ・ 卒業生の就職先の勤務確認（キャリア支援センターが就職先へ確認）

- ・同窓会・後援会の支援

被災新入学生への具体的支援

- ・入学が可能かどうか（入試広報センターが出身校高等学校へ確認）
- ・入学金・学費等の延納措置

④ 青森中央短期大学附属第一・第二・第三幼稚園

附属幼稚園では、園の特徴を生かし、日々の保育に創意工夫を凝らしながら、「健康で心豊かな子ども」を目指して、次のような教育活動に取り組んでいます。

・水遊び保育（5月～11月初旬まで）

大学の構内にある温水プールを利用し、水に慣れ親しむ活動から、発達段階に応じて面かぶりや伏し浮きなど、初歩的な技術向上にまで高めている。

・英会話遊び保育（5月～3月）

外国人講師を招聘し、ゲームを通じて基本的な日常会話等に興味関心を持たせ、国際感覚に触れる機会としている。今年度からはリトミックを取り入れ、コミュニケーション能力を高める内容になっている。

・公開保育

①保育参観日を5月と10月に実施し、保護者に指導内容を明確に示し、園児の成長の過程を公開すると共に、保護者の指導力の向上を図る機会としている。

②水遊び保育や英会話保育を公開し、施設や保育指導の状況等について保護者から信頼を得ている。

・遠足（5月、9月）

遠足へ出かけ、海岸や高原などへ出かけて自然環境に触れながら思いっきり遊んだり、またリンゴ狩りなどの体験をして楽しんでいる。

・運動会（6月、2月）

①6月の運動会は、広いグラウンドで家族の参加もあり、かけっこやお遊戯などを通じて体力作りの一環として実施している。

②2月は雪遊び運動会で、そり競争やゲーム、雪像づくりなど雪国ならではの楽しみを味わっている。

・社会見学

水族館、プラネタリウム、駅舎、博物館、郵便局等の見学を通じて社会性や道徳性を学ぶ場としている。

・交流活動

近隣の小学校、保育園、高校生、大学生、三思園（高齢者施設）へ出掛けたり、訪ねて来たりなど様々な年代の方と、お話やお遊戯、歌などで楽しい交流を図っている。

・菜園活動

ジャガイモ、サイツマイモ、いろいろな野菜を植え、成長過程を観察し、収穫を喜び合う場としている。

⑤青森中央文化専門学校・青森中央経理専門学校

青森中央経理専門学校

I. 地域活動 出前講座

○学生パソコン教室開催

地域社会貢献・地域活動の一環として、学校が所有する物的資源人的資源を活用し「ワードで作る年賀状講座」と題して専門課程1年生が地域の方々を対象にして平成22年11月6日(土)に公開講座を実施

○FPフォーラムIN青森参加

平成22年11月6日「お金と社会生活」と題して、日本FP協会青森支部の方々と協力して経理事務コースの学生が来場者の前で「お金」にまつわる疑問点を解決する方法を寸劇形式で紹介した。

○出前講座『10代から学ぶマネー講座』開催

「お金」と向き合うきっかけとなるよう、高校生向けに初歩からの金融リテラシー講座を開催

日程	場所	学年	人数
平成22年 6月10日(木)	弘前工業高等学校	1年	280
平成22年 7月 7日(水)	三戸高等学校	2年	106
平成22年12月13日(月)	弘前南高等学校大鱈校舎	3年	21
平成23年 1月18日(火)	青森工業高等学校	2年	243
平成23年 1月25日(火)	青森工業高等学校	3年	262

○パソコン講座開催

地域社会活動の一つとして、6月～7月の毎週水曜日計8回12時間、専門課程の学生が指南役となって高齢者向け「パソコン教室」を開催

II. 医療事務コース実習

○職場実習

平成22年11月に医療事務コース2年生が芙蓉会病院にて総合受付(接遇)や外来診療データと診療録との整合性チェック等の職場実習を実施した。

III. 委託訓練

専門学校の人的資源や物的資源を活用し以下の様な職業訓練を実施した。

期間	科名	委託元	期間
H22.5.27～H22.8.26	IT簿記経理科	青森高等技術専門学校	3ヶ月
H22.11.15～H23.2.14	観光人材養成科	青森高等技術専門学校	3ヶ月
H23.1.18～H23.3.17	OA教育	自衛隊	2ヶ月

IV. 青森県専門学校フェアに参加

平成22年11月5日 青森市駅前「アウガ」で開催された青森県専門学校各種学校連合会主催の「青森県専門学校フェア」に参加し、中学生・高校生及び保護者に専門学校の特色を説明した。

V. 観光人材養成事業

平成23年度からの観光コンシェルジュコースの開設に向けて、青森県から、ふるさと雇用再生事業として、観光人材養成業務を受託し、観光人材養成科・観光セミナーを実施した。

青森中央文化専門学校

I. ファッションショー「Bunka Fashion Live」の実施

例年学外で実施している、発表会「Bunka Fashion Live」の内容を一層充実させ、平成22年12月18日 青森市駅前「アウガ」において、地域のファッション・ショップ等と連携して、スタイリングショーを行う等充実したファッションショーを企画実施した。

II. AOMORI 春フェスティバルに参加

平成22年5月5日、新町昭和通りで本学の学生を中心に路上ファッションショーを実施。学園留学生、一般（高校生）モデルも参加し、ジーンズ・Tシャツのリメイク&スタイリングコーディネートショーを発表した。

III. 十和田湖水まつりの参加

平成22年7月17日、十和田湖イベント広場にて、ゆかたをアレンジしたオリジナル作品等を発表し、学園留学生、青森中央経理専門学校の学生も参加したファッションショーを開催した。

IV. 作品展示

8月22日 ファッション甲子園のブース、10月22日～23日 青森市民文化祭参加、1月13日～31日 長島市民ギャラリーに学生作品を展示し、一般の多くの方々にディスプレイした作品を見ていただいた。

V. 公開講座開講

- ・学校の施設を地域公開する公開講座として、一般の方を対象に、こぎん刺しや手持ちの洋服をレースやビーズ・布等付属を利用し、ワンランクアップのオリジナル作品に仕上げる「大人のリメイク講座～眠っている服をアレンジ～」等を開講した。
- ・タイトル「2Way ティアードスカート」と題し、青森市内の中学生・高校生を対象とした講座を開講した。
- ・「ユメココ・フェスタ in あおもり」と題し、理美容専門学校・保育士専門学校と一緒に、「職業人のトークと実演」と題し、キャリア教育の実践を行った。

VI. 委託訓練

基金訓練離職者等に対する職業訓練の委託事業として、9名の「介護福祉サービス科」を実施した。

VII. 高等課程の技術連携

青森県立北斗高等学校に加え、新たに東奥学園高等学校通信制と技能連携をはじめめる。

(2) 教育研究の概要

①教育研究上の基準となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学科	課程等
青森中央学院大学	経営法学部 地域マネジメント研究科	経営法学科 地域マネジメント専攻	
青森中央短期大学		食物栄養学科 幼児保育学科 看護学科 専攻科	福祉専攻
青森中央短期大学 附属第一幼稚園			
青森中央短期大学 附属第二幼稚園			
青森中央短期大学 附属第三幼稚園			
青森中央文化専門学校			服飾高等課程 服飾科 服飾専門課程 服飾科 服飾一般課程 服飾科
青森中央経理専門学校			商業実務専門課程 経理情報科

② 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

平成 23 年 5 月 1 日現在

大学等	学部・学科等	教員数
青森中央学院大学	経営法学部経営法学科 大学院地域マネジメント研究科 地域マネジメント研究所	31名 (教授 17 名、准教授 3 名、講師 10 名、助教 1 名)
【教員の保有学位または職務上の実績等】		
氏名	学位	職務上の実績等
中村 信吾	農学博士	学長、教授、弘前大学名誉教授
菊地 和聖	経済学博士	研究科長、教授、東北大学名誉教授
酒井 甫	商学修士	教授
木村 良一	政治学修士	教授
丹藤 進	文学修士	教授、弘前大学名誉教授
平出 道雄	経済学士	教授、キャリア支援センター長 青森銀行常務取締役、青森地域社会研究所長
小俣 勝治	法学修士	教授
尾崎 正利	法学修士	教授
岩船 彰	法学士	教授 青森地域社会研究所研究部長
大泉 光一	博士（国際関係） 経営学博士	教授 チリ国立大学客員教授 日本大学大学院国際関係研究科 教授
高橋 興	教育学士	教授、中央教育審議会専門委員 青森県立高等学校長 青森県総合社会教育センター所長
内山 清	経済学修士	教授、地域マネジメント研究所長、 (株)長銀総研コンサルティング 主席研究員
塩谷 未知	農学修士	教授、(株)価値総合研究所 取締役
藤田 正一	博士（経営学）	教授、弘前大学名誉教授
加藤 澄	博士（国際文化）	教授、図書館情報センター長
鈴木 克成	文学修士	教授
大野 和己	修士（経営学）	教授
竹中 司郎	経済学士	准教授、青森県立高等学校長
長谷川 雅人	商学修士	准教授
大泉 常長	国際経済学修士	准教授、国際交流センター長
木村 隆雄	理学士	講師、(株)富士通 システムエンジニア
新免 圭介	修士（経営情報学）	講師
鈴木 芳美	商学修士	講師
奥村 俊樹	修士（体育科学）	講師

氏名	学位	職務上の実績等
椎名 智彦	修士（法学）	講師
丸山 愛博	修士（法学）	講師
長畑 周史	修士（法学）	講師
佐藤 淳	公共経営修士 福祉マネジメント修士	講師、早稲田大学マニフェスト研究所研究員
金 美和	修士（法学）	講師
森田 学	博士（経済学）	講師、(株)価値総合研究所副主任研究員
田中 真寿美	修士（地域研究）	助教

大学等	学科	教員数
青森中央短期大学	食物栄養学科	13名（教授3名、准教授2名、講師5名、助教2名、助手1名）
	幼児保育学科	14名（教授5名、准教授4名、講師4名、助手1名）
	看護学科	19名（教授6名、准教授5名、講師2名、助教2名、助手4名）
	専攻科福祉専攻	3名（准教授1名、講師2名）

【教員の保有学位または職務上の実績等】

氏名	学位	職務上の実績等
久保 薫	家政学修士	学長、教授、食物栄養学科長、管理栄養士
久保 富男	教育学士	教授、学生相談室長、青森県・市教育委員会
村上 謙蔵	文学修士	教授、高等学校長
棟方 秀和	修士（理学）	准教授、食物栄養学科長補佐
宮田 篤	文学修士	准教授
舩澤 正博		講師、管理栄養士
木村 亜希子	家政学士	講師
池田 友子	家政学士	講師、管理栄養士、青森県栄養士会副会長
清澤 朋子	修士（農学生命科学）	講師
田嶋 知宏	修士（学術）	講師
浜中 幸美		助教、管理栄養士
水 珠子	博士（学術）	助教、管理栄養士
白取 敏江	準学士	助手、栄養士
大沢 陽子	体育学士	教授、幼児保育学科長
ロランド・パラシ	音楽修士	教授
杉木 信夫	教育学士	教授、青森県立盲学校長
石田 憲久	経済学士	教授、青森田中学園理事長
中村 實枝子		教授、青森中央短期大学附属幼稚園園長

氏 名	学 位	職務上の実績等
前田 美樹	教育学修士	准教授
工藤 久	社会学修士	准教授、社会福祉士、専攻科主任
時本 英知	修士（社会福祉学）	准教授、社会福祉士
清多 英羽	修士（教育学）	准教授
赤木 恭子	博士（教育学）	准教授、博物館学芸員資格
片川 ひろえ	準学士	講師、介護福祉士
木村 貴子	修士（教育学）	講師
中村 純子	修士（社会福祉学）	講師、介護福祉士
来住 かおり	修士（女性学）	講師
鈴木 寛康	修士（体育学）	講師、
松浦 淳	修士（教育情報学）	講師
林 のぶ慧	準学士	助手、保育士、幼二種
三田 禮造	医学博士	教授、看護学科長、医師、弘前大学名誉教授
村山 志津子	保健学修士	教授、看護師、保健師、皮膚・排泄ケア認定看護師
栗野 ヤエ子		教授、保健師 看護師
古橋 洋子	芸術学士	教授、看護師
岡崎 勝博		教授
北原 かな子	博士（国際文化）	教授
秋庭 由佳	修士（看護学）	准教授、看護師
高橋 佳子	修士（教育学）	准教授、助産師、看護師
木村 千代子	修士（人間科学）	准教授、看護師
玉熊 和子	修士（教育学）	准教授、助産師、看護師
鎌田 明美	修士（看護学）	准教授、看護師、保健師
中川 孝子	修士（看護学）	講師、看護師
高森 美也子	修士（看護学）	講師、看護師
田中 栄利子	修士（看護学）	助教、看護師
藤澤 珠織	理学修士	助教、看護師、学芸員資格
唐川 扶美子		助手、看護師
寺沢 千早	看護学士	助手、看護師
横濱 康子		助手、看護師
阿保 佑	学士（看護学）	助手、看護師

③学生に関する情報

(単位：人)

大学等	学部・研究科	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数	就職者数
青森中央 学院大学	経営法学部 (経営法学科)	<p>[入学に関する基本的な方針]</p> <p>本学の教育理念・目標に合致する学生、『進取性に富み良識ある職業人』すなわち『法律的な知識・思考と経営的なセンス・スキルをあわせもった人物』を育成するために、推薦入学試験、一般入学試験、大学入試センター入学試験、AO選抜入学試験といった多様な試験制度を実施している。志願者の能力や資質を各試験において、総合的に評価し判定している。</p>					
		145名	800名	569名	148名	10名	128名
	地域マネジメント研究科 (地域マネジメント専攻)	<p>[入学に関する基本的な方針]</p> <p>高度の専門的な知識・技能を身につけた専門的職業人を養成し、地域の発展に貢献できる人材を世に送り出すことをめざし、学部卒業生だけではなく、大学院に対する社会的ニーズの多様化に対応して、社会人の積極的な受け入れなど柔軟な発想でフレキシブルに対応しています。</p> <p>地域の問題・課題について積極的に研究する意欲をもつ人ならば、年齢や学歴にこだわらず、門戸を広く開けて歓迎する体制を整えています。</p>					
		10名	20名	34名	6名	0名	6名
<p>[就職者数及び卒業後の進路]</p> <p>リーマンショック後の超就職氷河期といわれる中で、青森中央学院大学の就職率は94.2%であった。</p> <p>青森市役所や平川市役所、野辺地町役場職員、五所川原消防署などの公務員の採用があった。また、青森銀行や青い森信用金庫などの金融業界への進出もみられた。</p> <p>地元企業への就職率50%を超えるなど堅調で、専門性を発揮できる業種に就職しており、地域への貢献が期待されている。</p>							
	食物栄養 学科	<p>[入学に関する基本的な方針]</p> <p>健康の維持・増進と疾病の予防・治療に携わることができ、更に食事の楽しさを伝えることができる栄養士の育成をめざし、次のような学生を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食と健康の関係に興味があり、オリジナリティある食生活を提案したい人 2. 和やかな心の通った食生活の提供を通じて社会に貢献したい人 3. 人々の健康を預かるという責任感が強い人 4. 他人から謙虚に素直に学ぶ姿勢を維持して、自己に厳しく他人に親切に行動できる人 5. 知的好奇心が旺盛で学問を楽しめる人 					
		63名	120名	134名	65名	2名	56名
		<p>[入学に関する基本的な方針]</p> <p>専門的知識や技術、幅広い教養を修得し、豊かな感性を養い、さらにボランティア活動や社会的活動に積極的に参加し、多くの人たちと触れ合い、強調することの大切さや喜びを感じ、社会に貢献できる保育者の育成をめ</p>					

青森中央 短期大学	幼児保育 学科	<p>ざし、次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自主的に学ぼうという姿勢と柔軟な思考力を持ち、修得したことへの素直な喜びを感じる人 2. 学ぶ 教える 育てることへの関心と熱意を持ち、周囲の人たちと協力しながら物事を進める事ができる人 3. 子どもが好きであることと、子どもから好かれるような人間になろうと努力する人 4. 心身ともに健康で明るく、何事にも挑戦し、表現することが好きな人 (音楽 美術 ダンス 絵本 演劇等) 5. 授業以外の課外活動(文化活動 スポーツ活動 ボランティア活動など)に積極的に取り組もうとする人 6. 幼児保育だけでなく、介護福祉の分野までを通して学びたいという意欲がある人 	92名	200名	187名	78名	23名	51名
	看護学科	<p>[入学に関する基本的な方針]</p> <p>人間尊重の視点に立った豊かな感性と人間性を持ち、専門的知識や科学的根拠に基づいて総合的に判断し、対象個々に適した看護実践ができる看護師の育成をめざし、次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を尊重する気持ちを持ち、感性を育み、相手に信頼と安心を与えられるよう努力できる人 2. 看護に関する専門知識や技術を身に付けるための基礎的な学力と看護に対する強い関心を持ち、心身共に健康で、主体的に学習することができる人 3. 相手を思いやりながら状況を判断してコミュニケーションが取れ、チームの中で協調性が図れる人 	82名	240名	276名	79名	3名	76名
	専攻科 (福祉専攻)	<p>[入学に関する基本的な方針]</p> <p>高齢社会に伴い、要援護高齢者が増加し介護ニーズも多様に求められる中、高齢者・障害者の尊厳を重視し、生活への視点をおいた介護サービスの提供ができる専門的介護福祉士の育成をめざしている。介護に対する興味関心があり、専門的知識と技術を積極的に身につけようとする意欲のある人、介護を受ける人の気持ちを察することができ、思いやりがある人を求めています。</p>	24名	20名	24名	16名	0名	16名
<p>[就職者数及び卒業後の進路]</p> <p>就職状況が大変厳しい中、青森中央短期大学(専攻科含む)の就職率は96.6%でした。</p> <p>学生は皆、県内からの求人各自の将来の目標を照らし合わせ、果敢に就職活動を行いました。その結果、栄養士、幼稚園教諭・保育士、看護師、介護福祉士の求人に対し、全体の70%以上がそれぞれの専門性を生かした職に就くことができました。</p> <p>特に、看護師は地元からの流出が社会問題化している中、東北地域に81%(内青森県内71%)が就職しており、社会的に高く評価されています。</p>								

※入学者数、収容定員、在学者数は平成23年5月1日現在

※卒業生数、進学者数、就職者数は平成23年3月31日現在

社会人学生数・留学者数（平成 23 年 5 月 1 日現在）

（単位：人）

大学名	学部学科等	社会人学生	留学生	海外派遣学生
青森中央学院大学	経営法学科	0	101	1
青森中央学院大学大学院	地域マシヅミ研究科	4	25	0
青森中央短期大学	食物栄養学科	0	—	—
	幼児保育学科	2	—	—
	看護学科	8	—	—
	専攻科福祉専攻	1	—	—

入学者推移（平成 23 年 5 月 1 日現在）

（単位：人）

大学名	学部学科等	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
青森中央学院大学	経営法学科	131	134	149	145
青森中央学院大学大学院	地域マシヅミ研究科	15	9	19	10
青森中央短期大学	食物栄養学科	73	70	73	63
	幼児保育学科	88	80	96	92
	看護学科	97	93	98	82
	専攻科福祉専攻	24	23	16	24

④ 教育課程に関する情報

イ. 授業科目の名称

本学ホームページ上に青森中央学院大学、大学院、青森中央短期大学の学則及び授業科目一覧表を公表している。

ロ. 取得可能資格

学校名	学科名	取得可能資格
青森中央学院大学	経営法学部経営法学科	中学校教諭一種免許「社会」 高等学校教諭一種免許「公民」「商業」 司書資格 学校図書館司書教諭免許 社会福祉主事任用資格 上級秘書士資格 防災士資格
	大学院地域マネジメント研究科	中学校教諭専修免許「社会」 高等学校教諭専修免許「公民」「商業」 税理士試験科目免除
青森中央短期大学	食物栄養学科	栄養士免許 中学校教諭二種免許「家庭」 栄養教諭二種免許 フードスペシャリスト資格認定試験受験資格 フードサイエンティスト資格 社会福祉主事任用資格 司書資格 学校図書館司書教諭免許 秘書士資格
	幼児保育学科	幼稚園教諭二種免許 保育士資格 社会福祉主事任用資格 レクリエーションインストラクター資格 司書資格 秘書士資格 社会福祉主事任用資格
	看護学科	看護師国家試験受験資格
	専攻科福祉専攻	介護福祉士
青森中央経理専門学校	商業実務専門課程	専修学校准教員資格
青森中央文化専門学校	服飾専門課程	専修学校准教員資格
	服飾高等課程	高等学校卒業資格

⑤学修の成果に関する評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・ 研究科等	就業 年限	必要取得 単位数	科目区分ごとの 修得単位数		修得可能な 学位及び専攻名称
				必修	選択	
青森中央 学院大学	経営法学部 経営法学科	4年	124単位	46単位	78単位	学士（経営法学）
	地域マネジメント研究科 地域マネジメント専攻	2年	30単位	14単位	16単位	修士（地域マネジメント）
青森中央 短期大学	食物栄養学科	2年	70単位	32単位	38単位	短期大学士（食物栄養学）
	幼児保育学科	2年	70単位	24単位	46単位	短期大学士（幼児保育学）
	看護学科	3年	100単位	94単位	6単位	短期大学士（看護学）
	専攻科福祉専攻	1年	50単位	50単位	0単位	

⑥学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部 研究科	所在地	主な交通手段
青森中央 学院大学		経営法学部 地域マネジメント研究科	青森市横内字神田12番地	<ul style="list-style-type: none"> ・通学には青森駅から専用スクールバスが運行しています。 ・マイカー通学も可能です。(学生駐車場完備) ・バスで青森駅から「モヤヒルズ」行、「ねぶたの里」行、「青森公立大学」行に乗車約25分、「青森中央学院大学前」下車。
	神田 キャンパス	<p>[キャンパスの概要]</p> <p>青森市街に程近く、近代的な本部棟を中心に、学びの意欲を刺激し、緑ゆたかな環境と情報発信のための施設が充実している。建物は本部棟・図書館棟・1号～9号館、キャンパス内には、学生寮・銀行CSコーナー・郵便ポスト・コンビニなど私生活で利用したい施設もあります。</p>		
		<p>[運動施設の概要]</p> <p>総合グラウンド</p> <p>野球場：両翼94m、センター120m。</p> <p>サッカー場：105m×68m。</p> <p>陸上競技場：400m×7コース。</p> <p>テニスコート：全天候型3面・ハンドボールコート2面</p> <p>体育館：アリーナ・ロビー・更衣室・シャワー室完備</p> <p>トレーニングルーム：筋力トレーニング機器（12種類、エアロバイク2種4台）</p> <p>柔道場：2面50畳。ボクシングジム：リング完備</p>		
	<p>[課外活動の状況]</p> <p>体育会系13団体</p> <p>柔道部・硬式テニス部・硬式野球部・サッカー部・バスケットボール部・ボクシング部・ハンドボール部・カーリング部・ボウリング部・バドミントン部・軟式野球部・ストリートダンス部・チアリーディング</p> <p>文化会系11団体</p> <p>FSA (Foreign Student Association)・ねぶた囃子方部・異文化交流会・書道部・資格取得研究会・英会話(異文化コミュニケーション)・軽音楽部・テーブルゲーム・かたりばサークル・珠算部・アンサンブル</p>			

大学等	キャンパス	学部 研究科	所在地	主な交通手段
青森中央 短期大学	神田 キャンパス	食物栄養学科 幼児保育学科 看護学科 専攻科	青森市横内字神田12番地	<ul style="list-style-type: none"> ・通学には青森駅から専用スクールバスが運行しています。 ・マイカー通学も可能です。(学生駐車場完備) ・バスで青森駅から「モヤヒルズ」行、「ねぶたの里」行、「青森公立大学」行に乗車約25分、「青森中央学院大学前」下車。
		<p>[キャンパスの概要]</p> <p>青森市街に程近く、近代的な本部棟を中心に、学びの意欲を刺激し、緑ゆたかな環境と情報発信のための施設が充実している。建物は本部棟・図書館棟・1号館～9号館、キャンパス内には、学生寮・銀行CSコーナー・郵便ポスト・コンビニなど私生活で利用したい施設もあります。</p>		
		<p>[運動施設の概要]</p> <p>総合グラウンド</p> <p>野球場：両翼94m、センター120m。</p> <p>サッカー場：105m×68m。</p> <p>陸上競技場：400m×7コース。</p> <p>テニスコート：全天候型3面・ハンドボールコート2面</p> <p>体育館：アリーナ・ロビー・更衣室・シャワー室完備</p> <p>トレーニングルーム：筋力トレーニング機器（12種類、エアロバイク2種4台）</p> <p>柔道場：2面50畳。ボクシングジム：リング完備</p>		
		<p>[課外活動の状況]</p> <p>積極的にボランティア活動に取り組んでおり、「学生による食育推進活動」、「青森県立美術館におけるワークショップ」をはじめとして、年間延べ100名以上の学生がボランティア活動に参加しています。</p> <p>短期大学独自のサークルとして、バスケットボール、バレーボールサークルの他に学院大と合同のアンサンブル、チアリーディング、書道部、ねぶた囃子方部、カーリング部、また、学院大学の野球部、サッカー部、ハンドボール部、柔道部等の活動にも参加しています。</p>		

⑦学生納付金に関する情報

大学等	学部 研究科等	授業料		入学金		その他の費用徴収	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
青森中央 学院大学	経営法学部	650,000 円	年 2 回 3 月・9 月	200,000 円	合格発表後 10 日以内	350,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料減免制度の概要] ・成績優秀学生の授業料減免の特待生制度 ・教育ローン利息補助奨学金制度 大学指定の教育ローンを利用して、学納金を完納した場合に、選定の上、教育ローンの年利息額を奨学金（上限 5 万円）として支給する。 ・子弟入学入学金減免制度					
	地域マネジ メント研究科	650,000 円	年 2 回 3 月・9 月	200,000 円	合格発表後 10 日以内	200,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料減免制度の概要] ・教育ローン利息補助奨学金制度 ・子弟入学入学金減免制度					
青森中央 短期大学	食物栄養学科 幼児保育学科	550,000 円	年 2 回 3 月・9 月	250,000 円	合格発表後 10 日以内	270,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料減免制度の概要] ・教育ローン利息補助奨学金制度 ・子弟入学入学金減免制度					
	看護学科	790,000 円	年 2 回 3 月・9 月	250,000 円	合格発表後 10 日以内	330,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料減免制度の概要] ・教育ローン利息補助奨学金制度 ・子弟入学入学金減免制度					
専攻科 福祉専攻	520,000 円	年 2 回 3 月・9 月	180,000 円	合格発表後 10 日以内	200,000 円	年 2 回 3 月・9 月	
	[授業料減免制度の概要] ・教育ローン利息補助奨学金制度 ・本学卒業または卒業見込みの者は、入学金を免除する。 ・子弟入学入学金減免制度						

⑧学生支援と奨学金に関する情報

<学生支援組織>

	組織名	機能
就職支援	キャリア支援センター	職業紹介（求人依頼、受付、公開、企業開拓）、 「キャリアプランニング」「就職セミナー」の 企画運営、就職相談、卒業生のフォロー
進学支援	キャリア支援センター	進学先（編入学、大学院、専攻科等）の紹介、 進学セミナーの実施、進学相談
学習相談	学習支援センター 学務委員会	履修科目・課程履修についての相談、成績不 振者の支援、リメディアル科目の開講
生活支援 (住居・アルバイト等)	学務課 総務課	学生会館（学生寮）の管理、アパート・下宿 等の紹介、アルバイトの紹介
経済支援	学務課 総務課	各種奨学金手続き（外国人留学生を除く）、教 育ローンの紹介、特待生制度
保健・衛生・ メンタルヘルス等	健康管理室 学生相談室	健康診断の実施、健康管理室の運営、学生相 談室の運営、
留学生支援	国際交流センター 学習支援センター	外国人留学生に対する学習・生活支援、外国 人留学生の奨学金手続き、国際交流行事の企 画・運営、日本人学生の留学支援
資格取得支援	学習支援センター	資格取得対策講座の企画運営、資格取得に関 する相談
課外活動支援	学習支援センター	課外活動（部・サークル、ボランティア）の 支援

<奨学金>

奨学金名	種別	奨学金	問い合わせ先	備考
日本学生支援機構 第一種奨学金	貸与	月 30,000 円（共通） 月 54,000 円（自宅） 月 64,000 円（自宅外）	学務課	無利子
日本学生支援機構 第二種奨学金	貸与	月 3・5・8・10・12 万 円から選択	学務課	有利子
あしなが育英会	貸与	月 40,000 円（一般） 月 50,000 円（特別）	学務課	無利子
交通遺児育英会	貸与	月 4・5・6 万円から選択	学務課	無利子
青森市奨学金	貸与	月 33,000 円	学務課	無利子
八戸市奨学金	貸与	月 40,000 円	学務課	無利子
福島県奨学資金	貸与	月 40,000 円	学務課	無利子

日専連青森育英奨学金	貸与	月 50,000 円	学務課	無利子
青森県教育厚生会奨学金	貸与	年 80 万円又は 50 万円	(財)青森県教育厚生会	無利子
母子・寡婦福祉資金	貸与	月 54,000 円 (自宅) 月 64,000 円 (自宅外)	青森市しあわせ相談室 浪岡事務所健康福祉課	無利子
子弟減免制度	免除	入学金の半額	入試広報センター	
特待生	免除	授業料の全額、半額または 3 割	入試広報センター	試験有

※留学生のみ

奨学金名	種別	奨学金	条件	備考
国費外国人留学生	給付	月 126,000 円+授業料+ 帰国旅費	4 月に 4 年次に在籍	
学習奨励費	給付	月 48,000 円		
(財)ロータリー米山記念奨学金	給付	月 100,000 円		
(財)平和中島財団奨学金	給付	月 100,000 円		
(財)佐川留学生奨学金	給付	月 100,000 円	東南アジア出身	
(財)サトー国際奨学財団奨学金	給付	月 120,000 円	東南アジア出身	
(財)朝鮮奨学金奨学金	給付	月 25,000 円	韓国・朝鮮籍	
(財)共立国際交流奨学財団奨学金	給付	月 100,000 円 又は 月 60,000 円	アジア諸国	
子弟減免制度	免除	入学金の半額		
私費外国人留学生学費減免制度	免除	授業料・教育充実費の半額	※全私費留学生対象	

教育ローン

Web 学費サポートプラン	オリエントコーポレーション (オリコ)	オリエントコーポレーション (オリコ) 学費サポートデスク
悠裕プラン	ジャックス	ジャックスコンシューマーデスク
教育ローン	青森銀行	青森銀行 本・支店
教育ローン	みちのく銀行	みちのく銀行 本・支店
国の教育ローン	国民政策金融公庫	国民政策金融公庫各支店および 金融機関

(3) 管理運営の概要

[ガバナンス]

平成17年度に私立学校法が改正・施行されたが、学校法人が社会環境の変化に主観的・機動的に対応するため、ガバナンスの充実が必要である。学校法人の使命は、「中長期計画に基づき安定した財務基盤を確立し、教育・研究活動を行い永続維持を果たしていく」ことである。そのためにガバナンスの果たすべきことは、将来リスクを明確に意識し、マネジメント体制を充実させ、学校法人の活動サイクルを円滑なものにすることである。また、中長期計画に基づいた適切な予算執行と、目的達成のための効率性を把握することが、予算制度の観点からも求められる。

さらに、コンプライアンスマネジメントやリスクマネジメントなども要請される。

これまでも、理事会において基本方針を策定し、教学組織と理事会との連携および機能分担を適切に行ったことで、改革を成功に導いてきた。今後もガバナンスの充実、教学組織と連携を図り、積極的に情報開示し、社会からの評価をフィードバックして、持続的な成長と発展を目指していく。

[自己点検・評価]

平成20年度に青森中央短期大学が、財団法人短期大学基準協会による認証評価を受審し適格の評価を受けたことに続き、平成21年度は青森中央学院大学が財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受審し平成22年3月24日付で「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定されました。専門学校・附属幼稚園も自己点検評価を実施している。

今後も、多様化する様々な課題に直面する中、教育の質をどのように保証していくかが課題となっており、学校法人が自らの将来と社会の信頼を確かなものにするためにも「内部質保障システム」の構築は、必要不可欠な要件と言える。設置基準・設置認可審査・認証評価など「外的質保障システム」への対応を目的とするのではなく、自らの責任において、諸活動について自己点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、そのことを通じて教育の質を保証していくことが必要となる。公益法人としての使命を果たしているかという視点が基盤となり、自己点検・評価活動の機能を高めることは、社会に対する説明責任を果たすことにも繋がってくる。

[情報公開]

学園報「こぶしの花」、「自己点検評価報告書」を関係機関に配布しているほか、学園および、各施設校のホームページで財務情報・教育情報等を随時公開をしています。

また、青森中央短期大学研究紀要、特別研究集録、看護研究集録、青森中央学院大学研究紀要、青森中央学院大学大学院研究紀要、青森中央学院大学地域マネジメント研究所年報を発行し、研究成果を公表しています。

[施設設備整備]

教育研究目的を達成するため、施設設備の安全性を確認しながら、アメニティに配慮した教育環境の整備に努めている。

(4) 特徴ある取り組みの概要

①教育力向上の取り組みの概要

イ. 授業の改善に向けた取り組み（FD活動）

例年行っている授業アンケートについて、「FDネットワークつばさ」の様式に変更し、集計作業の効率化を図るとともに、他大学等とも比較しながら授業改善に取り組んでいます。また定期的にFD研修会を実施し、学院大学、短大等独自のFD研修会だけではなく、合同での研修会も実施しています。

ロ. 入学前・後サポートプログラムの実施

リメディアル教育の充実をはかり、AO、推薦入学者を対象とした入学前サポートプログラムの内容をそれぞれの、学科や学生の志向にあわせて充実させています。

また、入学後も未履修科目や特定の科目の学力不足の学生に対して、リメディアル講座（アカデミックライティング、数学、化学、物理）を開設しました。

ハ. 教養教育の充実

教養科目の一部について、青森中央学院大学と青森中央短期大学で同時開講し幅広い科目群の中から選択ができるようにしています。

また、全設置校の学生が在学中に1度は「青森ねぶた祭り」に参加し、郷土の文化について学ぶ機会を作っています。

②国際交流の概要

イ. ベトナム国立貿易大学と国際交流協定を締結し、平成22年度から貿易大学で1年半で日本語を中心に学び、青森中央学院大学の2年次に編入する青森中央学院大学編入学コースを設けることとしました。

ロ. 外国人留学生の受け入れについては、青森中央学院大学を中心に、中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア等から優秀な留学生を受け入れており、様々な国際交流活動に取り組んでいます。最近では、本学を卒業した留学生が母国へ帰り青森のサポーターとしても活躍しています。

ハ. 青森中央短期大学においても、タイ王国チュラロンコン大学他海外からの視察を受け入れ、国際交流協定の締結を実施した。

③社会貢献・連携活動の概要

イ. 公開講座、公開授業、出前講座、セミナー等の開催

各施設校で、学校・学科の特色を活かした、公開講座等を定期的で開催しており、多くの参加者があり好評でした。特に今年度は青森中央短期大学で出前講座の広報を積極的に行い、1年間で47件もの出前講座を実施しました。

青森中央学院大学

公開講座「特別公開講座・マニフェストフォーラム」、「公開講座」、「世代の架け橋講座」、「留学生による語学講座（中国語、マレー語、韓国語、ベトナム語、タイ語）」、「地域マネジメント研究所ビジネスセミナー」、「あおもりツーリズム人づく大学はやて」

公開授業「現代社会論」、「市町村長リレートーク」「郷土と文化」

青森中央短期大学

公開講座「Session on the arts」、「親子クッキング」、「公開講座」、「食育講演会」

青森中央経理専門学校

公開講座「学生によるパソコン教室」

青森中央文化専門学校

公開講座「簡単に作れるカット&ソー」「誰でも似合うキュロットスカート」「デコ・リメイク」

ロ. 学生発表会

学園祭などの学内における発表会だけではなく、青森県立美術館における「青森中央短期大学幼児保育学科卒業記念講演」、青森市男女共同参画プラザでの青森中央文化専門学校「BUNKA Fashion live」、長島市民ギャラリー、青森市民美術館、青森県立北斗高校等での青森中央文化専門学校作品展示など、教育内容を地域に公表しています。

ハ. 出版

定期刊行物として、青森中央学院大学研究紀要、青森中央学院大学地域マネジメント研究所年報、青森中央短期大学研究紀要、青森中央短期大学特別研究集録、青森中央短期大学看護学科看護研究集録を出版したほか、「現代社会論」の講義内容をまとめた「現代社会におけるグローバル視点」(榎ぎょうせい)を出版しました。

ニ. グリーンツーリズム支援

本学に在籍する外国人留学生や、海外協定校等のネットワークを活かした、海外から青森県内へのグリーンツーリズム受け入れ事業を青森県内の各機関と連携して実施しており、台湾を中心に、タイ、香港等から修学旅行生等を受け入れしました。また、平成21年度から継続して、ふるさと雇用再生特別基金事業として、青森県からの委託を受けアジアと結ぶ国際グリーン・ツーリズム協力員配置事業を実施しました。

ホ. 高大連携

地域の高等学校の教職員を対象とした協議会を学園全体で毎年5月に実施しています。また、青森県、秋田県の高等学校生の模擬授業、大学見学を学園全体で受け入れており、高等学校内での出前授業、進学説明会も積極的に実施しています。

ヘ. 戦略的大学連携

青森市内の7つの大学で組織する、大学コンソーシアム青森の一員として、連携活動を進めています。

ト. 委託訓練の受け入れ

青森中央文化専門学校・青森中央経理専門学校では、離職者等に対する職業訓練の委託を受け実施しています。青森中央文化専門学校は雇用能力開発機構から定員20名の「介護福祉サービス科」を受託し実施しました。また青森中央経理専門学校では青森高等技術専門学校から「IT簿記経理科」「観光人材養成科」、自衛隊から「OA技能教育」を受託し実施しました。

3. 財務の概要

(1) 財産目録

(単位：円)

科 目	平成22年度	平成21年度
一. 資産		
(一) 基本財産		
1. 土地	(251,251.90 m ²) 1,893,206,662	(251,251.90 m ²) 1,893,206,662
2. 建物	(37,722.97 m ²) 3,268,406,059	(37,722.97 m ²) 3,405,293,077
3. 構築物	156,359,365	166,233,189
4. 教具・校具・備品	(20,850 点) 193,188,480	(20,999 点) 229,547,598
5. 図書	(75,629 冊) 338,232,210	(74,550 冊) 327,110,092
6. その他	3,384,110,668	2,377,780,145
(二) 運用財産		
1. 現金預金	1,255,369,399	1,700,976,693
2. その他	105,655,529	84,173,500
資産総額	10,594,528,372	10,184,320,956
二. 負債		
(一) 固定負債		
1. 退職給与引当金	179,140,122	126,210,250
(二) 流動負債		
1. 未払金	68,823,962	84,962,303
2. 前受金	441,268,046	438,889,111
3. 預り金	47,297,218	44,423,193
負債総額	736,529,348	694,484,857
三. 正味財産 (資産総額－負債総額)	9,857,999,024	9,489,836,099

※貸借対照表の資産や負債について、具体的内容を表したものです。学校法人が所有する土地や建物の面積、図書の冊数などを知ることができます。

※資産のその他の増加は、学園整備準備預金等の積立てによるものです。

(2) 貸借対照表

(単位：円)

科 目	平成22年度末	平成21年度末	増 減
固定資産	9,233,503,444	8,399,170,763	834,332,681
有形固定資産	5,853,576,181	6,045,473,090	△191,896,909
土地	1,893,206,662	1,893,206,662	0
建物	3,268,406,059	3,405,293,077	△136,887,018
その他の有形固定資産	691,963,460	746,973,351	△55,009,891
その他の固定資産	3,379,927,263	2,353,697,673	1,026,229,590
流動資産	1,361,024,928	1,785,150,193	△424,125,265
現金預金	1,255,369,399	1,700,976,693	△445,607,294
未収入金	102,397,464	83,732,000	18,665,464
その他流動資産	3,258,065	441,500	2,816,565
資産の部合計	10,594,528,372	10,184,320,956	410,207,416
固定負債	179,140,122	126,210,250	52,929,872
退職給与引当金	179,140,122	126,210,250	52,929,872
流動負債	557,389,226	568,274,607	△10,885,381
未払金	68,823,962	84,962,303	△16,138,341
前受金	441,268,046	438,889,111	2,378,935
預り金	47,297,218	44,423,193	2,874,025
負債の部合計	736,529,348	694,484,857	42,044,491
第1号基本金	9,026,415,642	9,043,541,475	△17,125,833
第2号基本金	200,000,000	100,000,000	100,000,000
第4号基本金	115,000,000	107,000,000	8,000,000
基本金の部合計	9,341,415,642	9,250,541,475	90,874,167
翌年度繰越消費収入超過額	516,583,382	239,294,624	277,288,758
消費収支差額の部合計	516,583,382	239,294,624	277,288,758
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	10,594,528,372	10,184,320,956	410,207,416

※貸借対照表とは、会計年末度における学校法人の資産、負債の内容、純資産（資産－負債）の額を明らかにします。また、基本金（維持すべき金額）に対する純資産の過不足状態を消費収支差額として表します。

※第2号基本金の増加は、体育館建設（平成26年度取得予定）資金に組入れしているものです。

※その他の固定資産の増加は、主として学園整備準備預金に充当するためのものです。

(3) 資金収支計算書

(単位：円)

科 目		平成22年度	平成21年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,548,285,148	1,521,870,771
	手数料収入	22,239,107	23,732,837
	寄付金収入	24,203,125	7,494,000
	補助金収入	312,901,389	293,409,124
	国庫補助金収入	261,093,000	239,860,000
	地方公共団体補助金収入	51,808,389	53,549,124
	資産運用収入	22,668,468	24,663,148
	事業収入	162,609,795	141,579,914
	雑収入	52,227,188	46,221,257
	前受金収入	441,268,046	438,889,111
	その他の収入	32,544,786	39,166,563
	資金収入調整勘定	△487,841,497	△473,468,688
	前年度繰越支払資金	1,700,976,693	1,490,608,395
	収入の部合計	3,832,082,248	3,554,166,432
支出の部	人件費支出	945,337,421	883,463,563
	教育研究経費支出	455,626,439	440,302,289
	管理経費支出	81,178,041	73,373,909
	施設関係支出	23,842,500	52,895,107
	設備関係支出	19,622,345	45,800,637
	資産運用支出	1,030,763,674	295,585,098
	その他の支出	89,166,391	146,731,439
	資金支出調整勘定	△68,823,962	△84,962,303
	次年度繰越支払資金	1,255,369,399	1,700,976,693
	支出の部合計	3,832,082,248	3,554,166,432

※資金収支計算書とは、当該会計年度の教育研究活動やこれに付随する活動に対応する、すべての収入と支出の内容を明らかにし、また現金預金の1年間（4月1日～3月31日）の動きを表すものです。

※寄付金収入の増加は、青森中央短期大学開学40周年記念に伴う後援会からの寄附によるものです。

※人件費支出の増加は、退職金の支給及び受託事業に伴う人員の増加によるものです。

※資産運用支出の増加は、学園整備準備預金等への繰入支出の増加によるものです。

(4) 消費収支計算書

(単位：円)

科 目		平成22年度	平成21年度
消費 収入 の 部	学生生徒等納付金	1,548,285,148	1,521,870,771
	手数料	22,239,107	23,732,837
	寄付金	24,326,125	23,881,866
	補助金	312,901,389	293,409,124
	国庫補助金	261,093,000	239,860,000
	地方公共団体補助金	51,808,389	53,549,124
	資産運用収入	22,668,468	24,663,148
	事業収入	162,609,795	141,579,914
	雑収入	52,227,188	46,221,257
	帰属収入合計	2,145,257,220	2,075,358,917
	基本金組入額合計	△108,000,000	△168,409,225
	消費収入の部合計	2,037,257,220	1,906,949,692
消費 支出 の 部	人件費	998,267,293	883,463,563
	教育研究経費	681,600,374	664,015,424
	管理経費	95,206,722	85,886,488
	資産処分差額	16,222	16,770,002
	徴収不能額	2,003,684	2,748,415
	消費支出の部合計	1,777,094,295	1,652,883,892
当年度消費収入超過額		260,162,925	254,065,800
前年度繰越消費支出超過額		0	△14,771,176
前年度繰越消費収入超過額		239,294,624	0
基本金取崩額		17,125,833	0
翌年度繰越消費支入超過額		516,583,382	239,294,624

※消費収入計算書とは、当該会計年度における収支状況を表す重要な計算書類です。帰属収入と消費支出の内容を明らかにし、また消費支出が消費収入より賄われているかを表します。

※寄付金の増加は、青森市より土地の譲与を受けたものです。

※資産処分差額の増加は、投資有価証券の評価減を行ったものです。

(5) 平成22年度決算の概要

平成22年度の消費収支は、帰属収入 2,145 百万円、対前年 70 百万円の増加、消費支出 1,777 百万円、対前年 125 百万円の増加となり、帰属収支差額はプラス 368 百万円、対前年 55 百万円の減少となりました。

また消費収支差額は、体育館建設計画に係る2号基本金 100 百万円を含む 108 百万円を基本金に組入れた結果、プラス 260 百万円となりました。

帰属収入増加の主な原因は、帰属収入は学生生徒等納付金が、1,548 百万円で、対前年 27 百万円の増加、補助金 311 百万円で、対前年 20 百万円の増加、事業収入 162 百万円で、対前年 21 百万円の増加となりました。学生生徒等納付金の増加は、青森中央学院大学大学院及び青森中央短期大学の学生数の増。補助金の増加は文部科学省の学生支援推進プログラムによるGP補助の増、事業収入の増加は、食育活動推進事業、観光人材要請事業等の受託事業収入の増によるものです。

一方、消費支出は、人件費が 998 百万円で、対前年 115 百万円の増加、教育研究経費 681 百万円で、対前年 17 百万円の増加、管理経費 95 百万円で、対前年 10 百万円の増加となりました。

人件費の増加は、退職金及び退職給与引当金組入額の増加並びに青森中央短期大学開学 40 周年記念事業に伴う管理経費の増加が主な要因です。

資産関連では、図書 11 百万円の増加、学園整備準備資金 829 百万円の増加、体育館建設特別資金 200 百万円の増加、現金預金 445 百万円の減少等となっております。

これらの結果、資産が 410 百万円増加、負債が 42 百万円増加し、平成22年度における正味財産は 9,857 百万円となりました。